

# 認定病院の 改善事例紹介 シリーズ

Improve

Vol.8  
精神科病院

## 紹介事例

医療法人 成精会  
刈谷病院

—ゆたかな心で地域とつながり、癒やす。寄り添う。守る。育む。—

医療を見つめる第三者の目。

それが病院機能評価です。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
Japan Council for Quality Health Care

<http://www.jcqhc.or.jp/>

## 日本医療機能評価機構

日本医療機能評価機構は、国民の健康と福祉の向上に寄与することを目的とし、中立的・科学的な第三者機関として医療の質の向上と信頼できる医療の確保に関する事業を行う公益財団法人です。



病院機能評価は、患者さんが安心して安全な医療を受けることができるように「病院の改善」を支援する仕組みです。サーベイヤーと呼ばれる専門調査者が病院を訪問し、病院の取り組みを評価します。病院外部の第三者機関による評価を上手く活用することで、これまで院内では気付くことができなかった課題や強みなどを明らかにすることができます。

評価の結果、一定の水準を満たしていれば「認定病院」となります。評価を受けることで明らかになった課題を改善し、認定を更新していくことで、継続的な質改善活動を行うことができます。

評価は、病院の特性に応じた6つの機能ごとに行われます。



第8号では『精神科病院』版の病院機能評価を活用して改善に取り組んだ事例を紹介します。

# ゆたかな心で地域とつながり、癒やす。寄り添う。守る。育む。

## 医療法人成精会 刈谷病院の場合…

地域における人とのつながりなしには治療が成立しない一方、いかに地域に受け入れられるか自体も問われる精神科。その特有の閉鎖性を打破し、地域とともに豊かな社会を創る刈谷病院を紹介します。



「よい病院」でありたい…。当院は、患者さんと地域と一緒に強みや可能性を見つけて伸ばし、「よい状態」を目指す取り組みをしています。

「よい」の基準は多岐にわたりますが、質が担保された当たり前の精神科医療を提供していきたい。そのための貴重な手段が病院機能評価の受審でした。(垣田院長)

## 退院支援 –患者という「地域を構成するひとり」を癒やす–

### 標準治療に個別化の観点を加える

2012年、同院は精神科救急病棟を新設した。精神科における「急性期のよい病院」とは何か――。理事長、院長はじめ病院のスタッフは真剣な話し合いと勉強を重ねた。全国の精神科病院にも出向き、各施設の運営から学ぶなかで、「PTC (Patient Total Conference)」に出会った。

精神科救急病棟の退院目標は12週。PTCでは、入院時から1週、4週、8週ごとに治療課題を設定し、退院支援を実施していく。

PTCの特徴について垣田院長は、用途が類似しているクリニカルパスと比較して、患者さん主体の治療計画が立てやすく、個別性の高い精神疾患の特異性を考慮したカンファレンスが可能になると説明する。



「クリニカルパスは一般的に、標準化された治療計画を立てるもので、個別性がやや手薄になりやすい面があります。個別性が大きい精神科医療では、型にはめにくい症例が多くあります。PTCは、個々の患者さんの課題への対応や治療方針に活用しやすいと感じました。」(垣田院長)

患者中心の医療の実現を目指し、同院はPTCを導入。認知症を始めとするクリニカルパスと紐付けることで、医療の標準化と個別化を両立させた。院内だけでなく地域の関連機関のかたもメンバーに入り、退院に向けた治療方針と課題を多角的に話し合う。

### 支援者や地域社会の癒しに向けて

PTCは病院機能評価受審の際、入院時から退院に向けた支援が実施されている点が大変評価された。一方で、この取り組みが患者さん・家族に還元されていくと医療の質がいつそう向上するのでは、と助言を受けたという。

一歩進んだ支援に結びつくなると、同院は早速PTCの内容を家族にフィードバックできるよう電子カルテ上のPTCシートの様式を変更した。PTCの内容を家族背景や経済面などの要素と関連付け、PTC実施後は、患者さん本人や家族へ用紙を渡す。用紙を渡すことで、治療の流れや病状、その後の生活など、具体的なイメージを共有できるようになった。また、PTCに関わるスタッフの名前が記載されているのを見て、「自分に協力してくれる人がいる」と患者さんが確認できることも、フィードバックをする利点の一つだ。「地域社会を構成するひとりとしての患者さん」を支援するための努力が続いている。

## 退院後のケア –地域と患者さんに寄り添う–

### 途切れない支援のため地域に出向く

同院では、退院後、入院中に担当だった精神保健福祉士が中心となり、多職種と地域の関連機関が参加する合同カンファレンスを開催する。合同カンファレンスは、患者さんと、患者さんを取り巻く地域の関係性に変化が生じる前に開催していく。多職種がアンテナを張り、変化を事前に察知して対応を考えることが途切れない支援につながる。



「今の状態がよくても、それで終わりではありません。将来的に必要なってくる地域の支援者を前もって予測するなど、問題が起きる前に予測して対応を話し合います。」(日置精神保健福祉士)

### 「患者にとってベスト」な支援のために

退院後カンファレンスは開催頻度や参加者を定期的に見直し、柔軟に変えていく。その過程で、病院が支援の主体的な役割を担うことが難しくなる場合も多い。地域の支援スタッフが主体的な役割を引き継ぐケースでも、同院は関わりを途切れさせず見守っていく。

「最初は病院主導ですが、地域のかたが中心となり病院の外に支援の主体が移ったあとも、カンファレンスなどに呼ばれて出向くことが多いです。」(高木精神保健福祉士)



支援の主体が移るにつれ、ケアマネジャーなど地域からの発信でカンファレンスが開催されるようになる。その際も同院スタッフに連絡が入り、出席を依頼されるという。病院からの一方的な情報提供でなく、地域と双方向の情報発信による支援の始まりだ。同院は患者さんと地域に寄り添い、一つひとつのケースにとってベストな形を柔軟に作り出している。

## 地域住民の精神の健康を守る、育む

### 地域との垣根をなくした「あったかハートまつり」

一般に、精神科病院は周辺住民との関係づくりが難しいと言われる。同院は「閉鎖性」に一因があると考え、この閉鎖性の打破を目的に、「あったかハートまつり」を始めた。コンセプトは、地域住民の方々に病院内の敷地に足を運んでいただき、特別な場所ではないと認識していただくことだ。

精神科病院に関する啓発ではなく、職員も、患者さんも、地域住民も共に楽しむために、企画段階から地域の有志に関わってもらう。地元の小学生や中学生による吹奏楽や絵手紙コンクールを行い、それを保護者が参観する。民生委員や児童委員、周辺企業も参加し、今年で11回目の開催となった。取り組みの甲斐あり、周辺住民との垣根が低くなったという。

「今では困りごとが躊躇なく持ち込まれるようになりました。例えば学校の先生からは不登校などの内容について、私たちに相談しやすいと思っています。」(平野理事長)



地域の健康増進に積極的に関わる同院の取り組みは、2007年の初回受審時から高く評価されてきた。

それでも地域のためにやるべきことはまだまだたくさんあると、同院は考えている。「精神科病院への入院となると、まだ患者さんやご家族のかたの心理的なハードルが高いかもしれません。(松本看護副部長)」。実際に、「家族を精神科に入院させることになるとは」と落胆される家族もいる。

一方的な「医療の提供者」とどまらず、地域と双方向のコミュニケーションのもと相談しあい、ともに地域を創っていく病院としての取り組みを、同院は今後も積極的に行っていく。

### コラム PTC (Patient Total Conference)

全職種 (医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士、事務部門)、全部署 (診療部、デイケア、作業療法士、事務、訪問看護、支援センター) が参加して実施する総合カンファレンス。同院では入院と同時に、退院に向けてPTCを実施している。入院1週間後、4週間後、8週間後の計3回、多職種で患者さんの病状、心理・家族・社会的背景などを検討し、その都度診療計画の見直しを行っている。検討した内容は、「PTCシート」へ記載し、医療スタッフはもちろんのこと、患者さんとも共有している。



# 病院機能評価受審の効果

「わたしたちが目指す理想の病院」を実現しようとしたとき、具体的な方策を示してくれたのが病院機能評価でした。

## 地域に対する思い

「心の時代」と言われるようになって久しい、理事長の平野医師はそう話し始めた。「地域における人と人とのつながりが薄くなり、心の部分が痩せつつあります。当院は地域社会において心の健康を保つための一翼を担いたいと願い、歩んできました」と振り返った。

病院機能評価を初めて受審した2007年、前理事長の尽力で同院はすでに地域に受け入れられていたという。「もうひとつ、さらに工夫を」と考え、院内外の連携をはじめとする医療の質向上に取り組む中で、病院機能評価の受審を決意した。「受審によって組織間の風通しがよくなりました。役割分担が明確になり、組織全体の動きが捉えられるようになりました」と手応えを実感している。

## ターニングポイントで機能評価を活用

同院のターニングポイントは、昭和38年の開院当初から使用されてきた病棟の建て替えと精神科救急病棟の新設であった。特に、精神科救急病棟の新設は新生刈谷病院のスタートと言える。精神科救急病棟の要件は非常に厳しいが、これから築き上げていく理想の医療・病院について職員が話し合いを重ねる中で、病院機能評価の内容が当然のように盛り込まれていったという。

「評価には地域連携の方法論や敷地内禁煙の厳格な実施などの課題が具体的に集約されており、必要な機能が



明文化されていました」と、菅沼副院長は語る。評価受審により、厳しい要件をクリアし続けられる現在の同院がある。

## 地域に期待される事務部へ

「院内だけでなく、地域に向けた情報発信と交流の面でも効果を実感しています」と話すのは岡事務長。初回受審の際に発足した地域連携室の活動により、行政や福祉関係者にも刈谷病院がどのような診療を行っているのか、どのような病院を目指しているのかがわかりやすく伝わりつつあるという。

事務部についても、機能向上の可能性を感じているという。「これまで患者さんとの接触の機会が少なかった事務部の職員ですが、これからは直接関わる仕組みをつくる必要性を感じています」とし、「すべての人に期待を持ってもらえる事務部」というスローガンが掲げられている。

## 血の通った組織づくり

「システムが整った一方で、杓子定規になりやすい部分も出てきた」と、平野理事長は新たな問題点を挙げた。二度目となる2014年の受審の際には、各部署や委員会の活動が評価される一方、内容の共有化については不十分との指摘があったという。互いが何をやっているか、困っていないか配慮し合うような「血の通った関係づくり」が新たな課題となる。

新たな目標を見つけた同院。今後もよりよい組織づくりに引き続き取り組んでいく。

# 編集後記

地域住民の方々の健康を支えるため、これまで地域とともに歩んできた刈谷病院。

自院のことを地域の皆さんに理解し受け入れていただくために、「あったかハートまつり」などの健康増進活動では、ただイベントを開催して一方的に自院のことを発信するのではなく、企画段階から地域の皆さんと双方向に話し合い、協力することで、地域の皆さんが困った時にはいつでも何でも相談していただけるような関係を構築しています。

他人に理解してもらうために、一方的に情報を発信したり思いを伝えることは簡単かもしれませんが、私自身も、読者の皆様の反応を大切にしながら、今後より役に立つ内容を伝えられるよう精進したいと感じた取材でした。

(久米麻莉菜)

# バックナンバーのご案内

バックナンバーは評価機構のホームページよりご覧いただけます。

<http://www.jcqhcc.or.jp>



●Improve Vol.7 慢性期病院 (2016年10月発行)  
《紹介事例》医療法人社団 廣徳会 岡部病院  
—地域に根ざした患者中心の医療を実現する院内教育—



- Improve Vol.6 一般病院1 (2016年5月発行)  
《紹介事例》医療法人清仁会 洛西ニュータウン病院  
—退院後も続く、患者との絆を結ぶチーム医療—
- Improve Vol.5 リハビリテーション病院 (2016年1月発行)  
《紹介事例》鶴岡市立 湯田川温泉リハビリテーション病院  
—「患者とともにある医療」をチームで推進する—
- Improve Vol.4 精神科病院 (2015年10月発行)  
《紹介事例》医療法人社団光生会 平川病院  
—チーム一丸となって患者の不安を取り除く—
- Improve Vol.3 一般病院2 (2015年5月発行)  
《紹介事例》国立大学法人 信州大学医学部附属病院  
—自発的な内部監査によって病院全体の質向上—
- Improve Vol.2 一般病院1 (2015年2月発行)  
《紹介事例》医療法人杏仁会 松尾内科病院  
—10年ぶりの第三者評価で強みと弱みを再発見—
- Improve Vol.1 慢性期病院 (2014年12月発行)  
《紹介事例》医療法人社団明芳会 新戸塚病院  
—改善風土の定着が組織を革新—

# 病院概要

平成28年10月3日現在

病 院 名	医療法人成精会 刈谷病院		
理 事 長	平野 千晶	院 長	垣田 泰宏
所 在 地	〒448-0851 愛知県刈谷市神田町二丁目30番地 TEL 0566-21-3511 / FAX 0566-21-3536		
開 設	昭和38年11月		
病 床 数	207床		
標 榜 科 目	神経科・精神科		

# 日本医療機能評価機構 認定病院の改善事例紹介シリーズ Vol.8 精神科病院

2017年1月発行

発行：公益財団法人 日本医療機能評価機構  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1丁目4番17号 東洋ビル  
TEL：03-5217-2320(代) / 03-5217-2326 (評価事業推進部)  
<http://www.jcqhcc.or.jp>

